

「無い」ことを「価値」に

的山大島の避粉地体験ツアーから見た地方の可能性

平 戸桟橋からフェリーで約40分。平戸島の北に位置する的山大島は、人口1,000人ほどの小さな島です。周囲の海は、北上する対馬暖流の影響を受ける豊かな漁場であり、農業にも適した気候であることから、昔から漁業と農業が営まれてきました。国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている神浦地区は、江戸時代から昭和前期にかけて建てられた古い木造家屋が軒を連ね、当時の面影が残ります。

スギ花粉が少ない島

そんな的山大島には、これからの時期、ある症状から逃れようと、島外から多くの人が訪れます。

その症状とは「花粉症」。スギやヒノキなどの植物の花粉が原因で生じるアレルギー反応のことで、季節性アレルギー性鼻炎とも呼ばれます。現在では、日本人の4人に1人が花粉症だと言われています。

花粉症の症状として、くしゃみや鼻水、鼻づまり、目のかゆみ、充血などがあります。このほか、体がだるい、熱っぽい、イライラする、集中力が低下するといった症状を伴うこともあります。風邪と似た症状で

すが、花粉が飛散している期間はずっとこのような症状が続くのが特徴です。症状がひどい人は、花粉が飛散する時期を沖縄や北海道、海外などの「避粉地」で過ごすこともあるようです。

的山大島には、花粉症の原因となるスギの木が少なく、南側の陸地からの影響もあまり受けられないため、スギ花粉の飛散が少なく、島民のスギ花粉症の有病率も全国的に見ても低い割合です。スギ花粉の飛散が少ないため、花粉症に悩む人たちにとって天国のような島なのです。

「無い」ことに「価値」を見出す

NPO法人文化財匠塾平戸支部は、スギ花粉が少ない的山大島の特徴に着目し、12年前から避粉地体験ツアーを開催しています。現在では、全国各地からスギ花粉症患者が、この時期に島を訪れています。

モノや情報、人などあらゆるものが都市部に集まり、何もないと思われている地方の元気が失われつつある現代において、的山大島では無いことに価値を見出し、もともとあった島の魅力と組み合わせた取り組みが行われています。

平の辻展望台からの眺め。どこまでも続く水平線と眼前に広がる棚田が美しい。

島の北部の大根坂地区からの眺め。海と山に囲まれた田舎ののどかな風景が広がっている。



平成20年スギ花粉飛散状況比較表

計測期間	福岡市内	江迎町	的山大島
2月20日～29日	408.5	842.0	71.2
3月1日～22日	1061.0	1289.0	282.1

※江迎町の3月計測分は3日～5日の集計結果。
 ※福岡市内は、一部ヒノキを含む。

りました。
 また、昭和57年の長崎大水害や昭和62年の台風12号など大規模な災害後に植林されたスギが成熟期を迎えていました。段階的な間伐や他の樹木への植え替えなど、花粉を減らすためのスギ林の改善について、花粉対策専門調査員である「合同会社多摩の山守」の山根氏を招き、現地調査も行いました。

的山大島に花粉が少ない理由

このような調査結果が出た背景には、スギ林の面積が少ないことと、スギ花粉の飛散時期の気候が大きく関係しています。
 島内のスギ林は島の面積の1%にすぎません。そのため、花粉の飛散量も全国的に見て非常に少なくなっています。また、スギ花粉が飛散する2月、3月は対馬海峡からの北風の影響により、スギ林が多い南側の平戸島や九州北部からの花粉の飛来を受けにくいということも理由の1つです。
 NPO法人文化財匠塾平戸支部は、専門機関と連携しながら、スギ花粉の避粉地であることを証明しました。そして、島の歴史や風景、人といった資源と組み合わせ、避粉地体験ツアーの取り組みを進めています。

都道府県別花粉症有病率 (%)

東京	福岡	長崎	沖縄	的山大島
32.1	18.2	15.2	6.0	2.65

※東京、福岡、長崎、沖縄については、平成20年の調査結果。
 ※的山大島については、平成22年の長崎大学による調査結果より。

的山大島の避粉地体験ツアーに向けた取り組み



1_合同会社多摩の山守の山根氏(右)によるスギ林の現地調査/2_西宇戸地区のスギ花/3_スギ林の面積の測量調査/4_平成23年度の避粉地体験ツアーおよびスギ花粉調査についての会議風景/5_ダーラム式花粉捕集器によるスギ花粉の捕集(大島支所屋上)。2枚の円盤の間にスライドガラスが設置されており、そこについて花粉の数を集計する。

どこに発見があるかわからない
 きっかけはある一言
 当たり前と思っていたことが思わぬ価値に

的山大島の価値を発見

「島にいる間、花粉症の薬を飲まないですんだ」。平成17年、関東地方から修学旅行で島を訪れていた中学生がポツリと言ったこの言葉が、スギ花粉の避粉地としての価値を見出したきっかけになりました。

また、当時、神浦地区の伝統的建造物群保存地区選定に向けた調査に関わっていた重度の花粉症患者である有識者からも「大島に泊まると鼻の調子が良い」との声がありました。そんな声をヒントにNPO法人文化財匠塾平戸支部は本格的な調査に乗り出します。

専門機関と協力して調査を開始

平成19年に福岡市の専門機関によ

る調査を実施。その結果、福岡市内や長崎県北部と比べ、スギ花粉が非常に少ないことが判明しました。

平成22年には長崎大学による全島民を対象としたアンケート調査と医師による聞き取り調査が行われました。アンケート結果などによりスギ花粉症と判断されたのは、島民のわずか2.65%で、全国平均26.5%を大きく下回る結果となりました。この数値は、避粉地として知られる沖縄県(6%)より低い割合でした。

平成23年には、島内のスギ林およびスギ花粉の飛散状況について調査。夏季のスギ花の確認や花粉シーズンの飛散花粉の捕集と分析を行いました。この調査でも、長崎県内の各地で観測されたデータと比較して、スギ花粉が非常に少ないことがわか

自然、歴史、食などの文化だけでなく
島に住む人たちのあたたかきを感じる

的山大島ならではのおもてなし

避粉地体験ツアーの取り組み

島を訪れた人たちの言葉や専門機関での調査結果を受け、的山大島ではスギ花粉避粉地への模索が始まりました。また、少子高齢化、過疎化が進む中で交流人口の増加による地域活性化や神浦の歴史的町並みの再生・活用も課題となっていました。平成20年の春に、第1回スギ花粉避粉地体験モニターツアーを自主企画。少ないながらも、福岡から2泊

3日のツアーに5人の参加がありました。参加者は、島につくと眼鏡やフード、マスクが取れ、症状の軽減具合を測る寛解度チェックでも滞在中に症状が改善されていることがわかりました。

その後、避粉地体験ツアーの取り組みは、平成20年から27年まで毎年行われ、徐々に全国放送のテレビやラジオ、新聞などで取り上げられるようになりました。そのおかげか、首都圏をはじめ全国各地から応募が来るようになり、定員の4倍もの応募が来た年もありました。平成30年は、荒天のため中止となりましたが、昨年は15人の定員に対し、数日で定員を超える応募がありました。参加者からは、ツアー継続やより長く滞在できるコースを要望する声も挙がりました。

おもてなしで伝える島の魅力

避粉地体験ツアーは、症状の改善だけでなく、的山大島の魅力を味わえる内容になっています。

重要伝統的建造物群保存地区に選定されている神浦地区の町並みや平の辻展望台・大賀断崖の展望台からの雄大な眺め、風力発電風車などの的山大島の景観を楽しむバスツアーを実施。宿泊先での食事や昼食の弁当も地元食材を使った島の伝統食が味わえます。魚釣りやイカの塩辛づくりなど体験メニューも用意されています。

そして、なにより島の人たちの温かいおもてなしがツアー参加者にとって大きな魅力になっています。参加者の感想にも、「島のの人たちの人柄やおもてなしに感激した」という声が多く寄せられています。

専門医による講座も開催

避粉地ツアーには毎回、長崎大学病院の医師も同行しており、最先端の治療法や予防法、対策などについての講座が行われています。ツアーが終わり、的山大島を離れてからも役に立つ情報を提供しています。



専門医から見る避粉地体験ツアー



長崎大学病院
耳鼻咽喉科・頭頸部外科
病院講師
医学博士 耳鼻咽喉科専門医

わたなべ たけし
渡邊 毅さん

「花粉症の正しい知見を広める」

長崎大学病院の医師・鼻副鼻腔アレルギーの専門家としてアレルギー性鼻炎（花粉症）の正しい知見を広められたらと思います、このツアーに同行しています。講座では、アレルギー性鼻炎（花粉症）の基礎知識から、内服薬や点鼻スプレーなどで症状を抑える対症療法、薄めたスギのエキスで花粉症に対して身体を強くする減感作療法（スギ舌下免疫療法）などについてお伝えしています。避粉地は抗原から逃れる新しい治療法として注目されており、根本的に治療する減感作療法（スギ舌下免疫療法）と組み合わせることが有効です。

ツアーに参加した皆さんが症状が良くなり笑顔になっているところを見ると、より多くの人にツアーのことを知ってほしいと思います。ツアーに同行し皆さんと交流する中でさまざまなご意見が刺激となり、私もアレルギー診療の糧を得ています。今後も、正しい知識を啓発していけたらと思います。



ツアー参加者への講座の様子





NPO法人文化財匠塾
平戸支部事務局

よねむら 米村 伍則さん

「受け皿を大きくし

継続していくことが必要」

避粉地体験ツアーは、NPO法人文化財匠塾平戸支部、あづち大島たちからものの会、神浦町並み保存会が主催して今年で12年目になります。ツアーを始めた当初は、参加者の確保に苦労することもありました。しかし、毎年約20人程度を定員に募集していますが、定員が埋まるほどの応募がありうれしく思います。過去のツアー参加者が知り合いを連れて参加したり、子どもが花粉症で悩んでいるご家族が参加したりと幅広く参加していただいています。

このように、少しずつではありませんが、スギ花粉避粉地としての認知度が広まってきていると思います。そのため、こちら側の受け皿を大きくしていくことが今後の課題であると考えています。

ツアーのアンケートでも、1週間や1カ月間の長期コースを希望する声や長期滞在できる受け入れ体制の拡充を求める声があります。神浦地区でも空き家など使われていない家屋があるので、中長期の滞在を希望する人たちに貸し出すことができな

が増えてきています。中長期の滞在を目的に、借りられる空き家がないかと質問を受けることもあります。中にはスギ花粉が飛散する時期に空き家を借りて数カ月滞在する人もいます。過去には、キャンプ場にテントを張って生活していた人もおり、ツアーに飛び入りで参加してもらい、話をしてもらったこともあります。

また、島内での移動手段がほしいとの声もあります。的山港のフェリー乗り場で電動アシスト自転車をレンタルすることもできますが、ツアーの参加者は高齢者が多く、起伏の激しい島内を自由に散策するには自転車以外の足が必要となります。現在は、民宿のオーナーが滞行者に車を貸し出すことで対応する場合があります。

今後より一層、全国各地のスギ花粉症患者の人的山大島という避粉地の存在を知ってもらい、ぜひツアーに参加していただきたいと思っています。この取り組みが始まった当初からの目的である「避粉地宣言」を目指し、これからも官民一体となつて、的山大島の新たな可能性と付加価値を探っていききたいと思います。



ツアーでは、米村さん自ら解説を行う。

「無い」ことが「価値」になる。

的山大島の避粉地としての

取り組みはこれからも続いていく。

重要伝統的建造物群保存地区である神浦地区の町並み

2020年「スギ花粉避粉地体験ツアー」開催

〒NPO法人文化財匠塾平戸支部(米村) ☎55-2487

- 時間がゆっくり流れる静かで空気のきれいな的山大島で、島の景観や冬の味覚を楽しみ、花粉症のリフレッシュを実感しませんか。
- とき 3月6日(金)～8日(日)
- ところ 的山大島
- 集合 午後3時 平戸港ターミナル
- 申込方法 右のQRコードから申し込んでください。

- 申込締切 2月16日(日)
- 参加費 1万6千円
- 定員 花粉症患者 20人
- 日程
 - 1日目 的山大島へ移動、開会式
 - 2日目 島めぐり、花粉症講座
 - 3日目 解散

申し込みはコチラから

